

## 島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱

(通 則)

第1条 島根県事業承継新事業活動等支援補助金（以下「補助金」という。）の交付については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）（以下「適正化法」という。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）（以下「適正化法施行令」という。）及び補助金等交付規則（昭和32年島根県規則第32号）（以下「規則」という。）によるほか、この要綱に定めるところによる。

(補助目的)

第2条 本補助金は、中小企業の事業承継を計画的に進めるための取り組みや事業承継を契機とした新たな取り組み等（以下「間接補助事業」という。）を行う事業者等（以下「間接補助事業者」という。）を支援することにより円滑な事業承継を促進し、地域経済を支える県内中小企業の維持及び発展を目的とし、その取り組みを支援する支援機関（以下「補助事業者」という。）に対して、予算の範囲内において補助金を交付する。

(定 義)

第3条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 中小企業者 中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条第1項に掲げる者であって、原則として島根県内に主たる事業所又は工場を有する者をいう。
- (2) 小規模事業者 商工会及び商工会議所による小規模事業者の支援に関する法律（平成5年法律第51号）第2条に掲げる者であって、原則として島根県内に主たる事業所又は工場を有する者をいう。
- (3) 商工会 商工会法（昭和35年法律第89号）に規定する商工会をいう。
- (4) 商工会議所 商工会議所法（昭和28年法律第143号）に規定する商工会議所をいう。
- (5) 県中央会 中小企業等協同組合法（昭和24年法律第181号）に規定する都道府県中小企業団体中央会をいう。
- (6) 財団 公益財団法人しまね産業振興財団をいう。
- (7) 支援機関 本事業に取り組もうとする中小企業者を支援する商工会、商工会議所、県中央会及び財団をいう。
- (8) 事業承継 原則として、個人事業者にあつては、前事業者が廃業届を後継者が開業届出を提出して事業を引き継ぐこと、法人にあつては、代表者の交

代及び株式の過半数又は前代表者の全ての譲渡を受けて事業を引き継ぐことをいう。

- (9) 後継者 補助金の交付を受けようとする会計年度の4月1日時点から2年前までの間に事業承継を行った者をいう。
- (10) 後継予定者 補助金の交付を受けようとする会計年度の4月1日時点から10年以内に事業承継を行う予定の者をいう。
- (11) 補助事業 補助事業者が間接補助事業者の間接補助事業に係る補助金を交付する事業と、当該間接補助事業を支援する事業をいう。
- (12) 法承認等 中小企業等経営強化法（平成11年法律第18号）第8条第1項に基づく経営革新計画の承認もしくは中小企業等経営強化法（平成11年法律第18号）第13条第1項に基づく経営力向上計画の認定をいう、又は、生産性向上特別措置法（平成30年法律第25号）第40条第1項に基づく先端設備等導入計画の認定をいう。

（補助対象経費及び補助対象期間）

第4条 補助対象経費は、別表1のとおりとする。ただし、消費税及び地方消費税は補助対象経費から除くものとする。

- 2 間接補助事業の補助対象期間は、補助金の交付を受けようとする会計年度の2月28日までとする。
- 3 補助事業の補助対象期間は、間接補助事業者の補助対象期間の期限から14日以内までとする。
- 4 補助率及び補助上限は別表2のとおりとする。

（間接補助事業者の要件）

第5条 事業を実施しようとする事業者は次の共通要件の全て及び個別要件を満たすものとする。

(1) 共通要件

ア みなし大企業（発行済株式の総数又は出資価格の総額の2分の1以上を同一の大企業（中小企業投資育成株式会社法（昭和38年法律第101号）に規定する中小企業投資育成株式会社及び投資事業有限責任組合契約に関する法律（平成10年法律第90号）に規定する投資事業有限責任組合を除く。以下同じ。）が所有している中小企業者、発行済株式の総数若しくは出資価格の総額3分の2以上を大企業が所有している中小企業者又は大企業の役員若しくは職員を兼ねている者が役員総数の2分の1以上を占めている中小企業者をいう。）でないこと。

イ 島根県税の滞納がないこと。

ウ 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法

律第77号)第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。)ではないこと。

エ 役員等(個人である場合はその者、法人である場合は役員、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。)が暴力団員(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。)ではないこと、又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者を経営に関与させている事業者でないこと。

オ 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしていないこと。

カ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的又積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していないこと。

キ 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれと社会的に批判すべき関係を有していないこと。

ク 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律(昭和23年法律第122号)第2条第1項に規定する風俗営業及び同条第5項に規定する性風俗関連特殊営業を行う事業者でないこと。また、これらの営業の一部を受託する事業者でないこと。

ケ 日本標準産業分類大分類における農業、林業、漁業を行う事業者でないこと。

コ 競輪・競馬等の競走場を行う事業者でないこと。

サ 競輪・競馬等の競技団を行う事業者でないこと。

シ 芸ぎ業(置屋、検番を除く。)を行う事業者でないこと。

ス 娯楽に付帯するサービス業のうち、場外馬券売場、場外車券売場、競輪・競馬等予想業を行う事業者でないこと。

セ 宗教、政治・経済・文化団体を行う事業者でないこと。

ソ 公序良俗に問題のある事業又は公的な資金の使途として社会通念上、不適切であると判断される事業でないこと。

タ 事業が、国又は県の他の補助金等を活用する事業でないこと。

チ 支援機関による支援体制が整っていること。

## (2) 個別要件

個別要件は別表3のとおりとする。

### (補助金交付の申請)

第6条 間接補助事業者は、補助金の交付を受けようとするときは、補助金交付申請書(様式第1-1号)に関係書類を添えて、補助事業者に申請しなければならない。

らない。

- 2 補助事業者は、前項の規定による申請があり、当該申請の内容を審査し、補助金を交付すべきものと認め、県からの補助金の交付を受けようとするときは、補助金交付申請書（様式第1-2号）に関係書類を添えて、知事へ申請しなければならない。

（補助金交付の決定）

第7条 県は、前条第2項の規定による申請があったときは、当該申請の内容を審査し、補助金を交付すべきものと認めたときは、補助事業者へ交付決定を行い、補助金交付決定通知書（様式第2-1号）を補助事業者に送付するものとする。

- 2 県は、前項の通知に際して、必要な条件を付することができる。
- 3 補助事業者は、第1項の規定による通知があった場合には、間接補助事業者へ交付決定を行い、補助金交付決定通知書（様式第2-2号）を通知するものとする。
- 4 補助事業者は、前項の通知に際して、第2項による条件があるときは、当該条件を付して通知することとする。

（申請の取下げ）

第8条 間接補助事業者は、交付決定の内容又は条件に対して不服があり、補助金の交付申請を取り下げようとするときは、交付決定通知書を受けた日から10日以内に補助事業者へ補助金交付申請の取下げ（様式第3-1号）を申請することができる。

- 2 補助事業者は、前項の申請があったときは、補助金交付申請の取下げ（様式第3-2号）を県へ申請することとする。

（補助事業の経理等）

第9条 補助事業者は、補助事業に関する収支の状況を会計帳簿によって明らかにしておくとともに、その会計帳簿及び収支に関する証拠書類を備え付け、これを補助事業の完了又は廃止した年度の翌年度から5年間保存しなければならない。

（補助事業の内容及び経費の変更の承認等）

第10条 間接補助事業者は、補助事業の内容又は対象経費の配分の変更をしようとするときは、あらかじめ補助事業者へ補助事業の変更申請書（様式第4-1号）を申請し、その承認を受けなければならない。ただし、別表4に定める軽微な変更についてはこの限りではない。

- 2 補助事業者は、前項の申請を受け、当該申請の補助事業の変更が妥当であると認められるときは、補助事業の変更申請書（様式第4-2号）に関係書類を添

えて、県へ申請し、その承認を受けなければならない。

- 3 県は前項の申請があったときは、当該申請の内容を確認し、補助事業者へ承認可否の回答（様式第5-1号）を通知する。
- 4 補助事業者は前項の通知を受けたときは速やかに間接補助事業者へ当該申請の承認可否の回答（様式第5-2）を通知すること。

（補助事業の中止又は廃止）

第11条 間接補助事業者は、補助事業を中止又は廃止をしようとするときは、あらかじめ補助事業の中止（廃止）申請書（様式第6-1号）により、補助事業者の承認を受けなければならない。

- 2 補助事業者は前項の申請があり、当該申請の内容を確認し、補助事業を中止又は廃止が妥当であると認められるときは、補助事業の中止（廃止）申請書（様式第6-2号）に関係書類を添えて、県の承認を受けなければならない。
- 3 県は第2項の申請があったときは、当該申請の内容を確認し、補助事業者へ中止（廃止）申請の回答（様式第7-1号）を通知する。
- 4 補助事業者は前項の通知を受けたときは速やかに間接補助事業者へ当該申請の中止（廃止）申請の回答（様式第7-2号）を通知すること。

（遂行状況報告）

第12条 間接補助事業者は、9月30日現在における補助事業の遂行状況について、遂行状況報告書（様式第8-1号）によって、補助事業者へ10月14日までに報告しなければならない。ただし、9月30日までに事業が完了した者は除く。

- 2 補助事業者は、前項の報告を受けたときは、遅滞なく当該報告書等の書類の審査及び現地調査等を行い、遂行状況報告書（様式第8-2号）と関係書類を添えて、県に報告すること。

（実績報告）

第13条 間接補助事業者は、補助事業が完了したときは、完了日から起算して30日を経過する日又は補助対象期間の末日いずれか早い日までに実績報告書（様式第9-1号）を補助事業者へ報告すること。

- 2 補助事業者は、前項の報告を受けたときは、報告書等の書類審査及び現地調査等を行い、その報告に係る補助事業の実施結果が補助金の交付決定の内容（第10条に基づく変更の承認があるときは、その変更後の内容）及び付された条件に適合すると認めたときは、間接補助事業者から報告のあった日から14日以内に実績報告書（様式第9-2）を県へ報告すること。

(補助金の額の確定)

第 14 条 県は、前条の報告を受けたときは、速やかに検査を実施し、補助事業者へ交付すべき補助金の額を確定し、補助事業者へ通知する。

- 2 補助事業者は前項の通知を受けたときは速やかに間接補助事業者へ通知すること。

(補助金の支払)

第 15 条 間接補助事業者は、前条の規定により、補助金の額が確定し、支払を受けようとするときは、補助事業者へ精算払請求書(様式第 10-1 号)を申請しなければならない。

- 2 補助事業者は、前項の規定により申請があったときは、県へ精算払請求書(様式第 10-2 号)を申請しなければならない。

(補助金の交付決定の取消)

第 16 条 補助事業者は、第 10 条の規定に基づく補助事業の内容及び経費の変更の承認を行った場合、若しくは第 11 条の規定に基づく補助事業の中止又は廃止の承認を行った場合、又は別表 5 の規定に該当すると判明したときは県へ報告するものとする。

- 2 県は前項の報告を受けたときは、補助事業者の交付決定の全部もしくは一部を取り消し、又は変更することができる。
- 3 補助事業者は前項の措置があったときは間接補助事業者への交付決定の全部もしくは一部を取り消し、又は変更することとする。
- 4 補助事業者は、前項の取消しをした場合において、すでに当該取消しに係る部分に対する補助金が交付されているときは、期限を付して当該補助金の全部又は一部の返還を命じ、県へ返還することとする。

(財産の管理及び処分)

第 17 条 間接補助事業者は、補助事業により取得し、又は効用が増加した財産(取得価格が 50 万円以上又は効用の増加価格が 50 万円以上の機械、器具、備品及びその他財産に限る。以下「取得財産等」という。)について、補助事業の完了後も、取得財産等管理台帳(様式第 11 号)を整え、その保管状況を明らかにし、善良な管理者の注意をもって管理しなければならない。

- 2 間接補助事業者は、取得財産等を処分しようとするとき又は他の用途に使用し、他の者に貸し付け、若しくは譲り渡し、他の物件と交換し、若しくは債務の担保に供しようとするときは、補助事業者へ処分承認申請書(様式第 12-1 号)を申請し、承認を受けなければならない。
- 3 補助事業者は、前項の規定による申請があったときは、知事へ処分承認申請

書（様式第12-2号）を申請し、承認を受けなければならない。

- 4 知事は、前項の申請があったときは、内容を審査の上、当該取得財産の処分承認適否の回答（様式第13-1号）を補助事業者へ通知するものとする。
- 5 補助事業者は、前項の通知に基づき、補助事業者へ当該取得財産の処分承認適否の回答（様式第13-2号）を通知するものとする。
- 6 間接補助事業者は、前項の規定の承認を受け、取得財産等を処分することによって、収入があるときは、その収入の全部又は一部を納付させることがある。ただし、当該取得財産が減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）の定める耐用年数を経過している場合を除く。

（産業財産権等に関する届出）

- 第18条 間接補助事業者は、補助事業に基づく発明、考案等に関して、特許権、意匠権、商標権等（以下「産業財産権等」という。）を補助事業期間内に出願若しくは取得した場合又はそれを譲渡し、もしくは実施権等を設定した場合には、遅滞なく産業財産権等取得等届出書（様式第14-1号）を補助事業者に提出しなければならない。
- 2 補助事業者は、前項の報告を受けたときは、遅滞なく産業財産権等取得等届出書（様式第14-2号）と関係書類を添えて、県に報告すること。

（収益納付）

- 第19条 補助事業者は、間接補助事業者が行う補助事業の実施期間内に、補助事業の実施結果の事業化、産業財産権等の譲渡又は実施権の設定及びその他補助事業の実施により収益が生じたと認めたときは、補助事業者に対して交付した補助金の全部又は一部に相当する金額を補助事業者に納付させることができるものとする。
- 2 補助事業者は、前項の納付を受けたときは、遅滞なく県に納付すること。

附 則

1. この要綱は平成31年4月1日から施行する。

附 則

1. この要綱は令和2年4月1日から施行する。

別表 1 (第 4 条関係)

経費区分及び補助対象経費

事業区分	補助対象経費
① 事業承継実施事業	申請書類等作成経費、企業評価等診断経費、その他専門的支援経費
② 人材育成事業	研修経費、幹部人材募集経費
③ 新商品・新サービス開発事業	原材料費、産業財産権取得費、市場調査費、備品機械設備等購入費、施設改修費、撤去費、IT 導入費、研修経費、外注費
④ 販路開拓事業	広報費、展示会等経費、県外店舗等借入・機械器具リース費、雑役務費、研修経費、外注費
⑤ 第三者承継促進事業	M&A 仲介委託料・着手金、マッチング手数料、企業評価等診断経費
⑥ 小規模事業者企業価値向上事業	備品機械設備等購入費、IT 導入費、広報費
①～④の事業は、後継者又は後継予定者が主体となり、⑤、⑥は代表者が主体となって取り組むものとする。	

※補助対象経費の詳細は別に定める



別表 2 (第 4 条関係)

補助率及び補助上限

事業区分	補助率	補助上限
① 事業承継実施事業	1/2	100 万円
② 人材育成事業	1/2	100 万円
③ 新商品・新サービス開発事業	1/2 ただし、法承認等がある場合は 2/3	100 万円 ただし、法承認等がある場合は 200 万円 (④のただし書きを適用した場合、100 万円)
④ 販路開拓事業	1/2 ただし、法承認等がある場合は 2/3	100 万円 ただし、法承認等がある場合は 200 万円 (③のただし書きを適用した場合、100 万円)
⑤ 第三者承継促進事業	1/2	200 万円
⑥ 小規模事業者企業価値向上事業	1/2	200 万円
<p>・ ①～④の事業を複数申請する場合、補助上限は300万円とする。法承認等がある場合は、400万円とする。</p>		

別表 3 (第 5 条関係)

個別要件

事業区分	個別要件
① 事業承継実施事業 ② 人材育成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後継予定者が決まっており、補助金の交付を受けようとする会計年度の 4 月 1 日時点から 10 年以内に実施する事業承継計画（事業承継推進員の確認を受けていること。以下同じ）を有し、代表権及び株の過半数を引き継ぐ計画としている事業者（個人事業主の承継も含む）</li> </ul>
③ 新商品・新サービス開発事業 ④ 販路開拓事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後継予定者が決まっており、補助金の交付を受けようとする会計年度の 4 月 1 日時点から 5 年以内に代表者の交代をする事業承継計画を有し、株の過半数を引き継ぐ計画としている事業者（個人事業主の承継も含む）</li> <li>・補助金の交付を受けようとする会計年度の 4 月 1 日時点で事業承継実施後 2 年以内の事業者</li> </ul>
⑤ 第三者承継促進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県事業引継ぎ支援センターを通して、登録民間支援機関の支援を受け後継候補者又は事業譲渡先を確保しようとする事業者、又は、後継者が不在の県内企業の事業の譲受を試みようとする事業者</li> </ul>
⑥ 小規模事業者企業価値向上事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね 10 年以内をめどに事業承継を予定しており、法承認等を受けている小規模事業者</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・①～④の事業区分は、後継予定者の年齢が補助金の交付を受けようとする会計年度の 4 月 1 日時点で 65 歳未満であること</li> <li>・①～④の事業区分は、株の過半数等を引き継ぐ計画とすること</li> <li>・⑥の事業区分は、代表者の年齢が補助金の交付を受けようとする会計年度の 4 月 1 日時点で 50 歳以上であること</li> </ul>	

別表 4（第 10 条関係）

補助事業の軽微な変更

変更事由	軽微な変更該当する場合
内容の変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補助事業の目的に変更をもたらすものではなく、より能率的な補助目的の達成に資すると考えられるとき</li> <li>・ 補助目的及び事業能率に関係がない事業計画の細部の変更であるとき</li> </ul>
経費の変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同一事業区分内の対象経費へ配分された補助申請額において、いずれか低い額の 10 パーセント以内での流用増減であるとき</li> </ul>

別表 5（第 16 条関係）

補助金の交付決定の取消

間接補助事業者が、法令、要綱もしくは別に定める規定に基づく補助事業者の指示等に違反したとき。
間接補助事業者が、補助金を補助事業以外の用途に使用したとき
間接補助事業者が、補助事業に関して、不正、怠慢その他不適切な行為をしたとき
間接補助事業者が、交付決定後に生じた事情の変更により、補助事業の全部または一部を継続する必要がなくなったとき

様式第 1-1 号

令和 年 月 日

補助事業者  
代表者 様

住所  
間接補助事業者  
代表者 印

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付申請書

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第 6 条第 1 項に基づき、下記のとおり補助金の交付を申請します。

記

- |                |       |             |
|----------------|-------|-------------|
| 1 補助事業の内容      | 別紙    | 事業実施計画書のとおり |
| 2 補助金交付申請額     | 金     | 円           |
| 3 補助事業の経費配分、内訳 | 別紙    | 事業収支予算書のとおり |
| 4 事業完了期日       | 年 月 日 |             |

添付書類  
採択通知の写し

# 事業実施計画書

## 1 実施主体の概要

・ 事業者名 :	
・ 住所 :	
・ 主たる事業所・工場の所在地 :	
・ 代表者職・氏名 :	
・ 承継前経営者の現在の職・氏名・年齢 :	( 歳)
・ 後継(予定)者の現在の職・氏名・年齢 :	( 歳)
・ 業種(産業大分類-中分類) :	—
・ 資本金・出資金(千円) :	
・ 常用雇用者数(人) :	
・ 企業規模 : <input type="checkbox"/> 小規模 <input type="checkbox"/> 小規模以外(いずれかにチェック)	
・ 電話番号・ファクシミリ番号 :	

※(第三者承継促進事業及び小規模事業者企業価値向上事業を申請する場合は後継(予定)者の項目は記入不要)

## 2 既存事業の状況について

(経営革新計画、経営力向上計画又は先端設備等導入計画の申請書を提出し、当該事業を記載していれば記入は不要です。追記されることがあれば記載してください。)

既存事業の状況 (既存事業の外部環境・内部環境、自社の問題・課題等承継の対象となっている事業の現状を記載)
--

## 3 申請事業の内容

(⑤の申請事業の内容と⑥申請事業の効果について、経営革新計画、経営力向上計画又は先端設備等導入計画の申請書を提出し、当該事業を記載していれば記入は不要です。追記されることがあれば記載してください。)

① 申請事業のテーマ・事業名
② 事業全体の実施期間(終了予定日のいずれかにチェック、記入) [開始予定日] [終了予定日]※支払行為も完了していること 交付決定日 から 令和 年 月 日 まで
③ 補助金・補助金の交付を受けた実績 (申請事業者が、国・県等の補助金等を受けた過去3年間の実績。申請予定含む)

<p>④ 実施体制 (後継候補者が中心となる実施体制を記載。第三者承継促進事業の場合は島根県事業引継ぎ支援センターで登録されている民間支援機関を含めた実施体制を記載)</p>
<p>⑤ 申請事業の内容 (複数の事業区分を申請する場合は、事業区分ごとに記載。時期、委託先等との役割分担も記載。)</p>
<p>⑥ 申請事業の効果 (取組により目標とする売上の達成といった定量的な効果や市場での優位性の獲得といった定性的な効果を記載。第三者承継においては、取組により維持される雇用や地域経済への影響を記載。)</p>
<p>⑦ 第三者承継促進事業の場合は、委託先(予定)の登録民間支援機関について記載</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 事業者名</li><li>・ 住所</li><li>・ 担当者・担当所属</li><li>・ 電話番号</li></ul>

#### 4 実施スケジュール

事業区分	実施項目	実施時期											
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
① 事業承継実施事業													
② 人材育成事業													
③ 新商品・新サービス開発事業													
④ 販路開拓事業													
⑤ 第三者承継促進事業													
⑥ 小規模事業者企業価値向上事業													

※実施時期は、矢印等により記載、記入欄に過不足がある場合は、行を追加・削除して記載

#### 5 数値計画

単位（千円）

	直近期末 (年 月 期)	1年後 (年 月 期)	2年後 (年 月 期)	3年後 (年 月 期)	4年後 (年 月 期)	5年後 (年 月 期)
①売上高						
②売上総利益						
③営業利益						
④営業外費用						
経常利益 (③-④)						
伸び率 (%)	—					
⑤人件費						
⑥減価償却費						
常用雇用者数						
付加価値額 (③+⑤+⑥)						
付加価値額の伸び率 (%)	—					

※取組の実施期間にあわせ、最長5年後まで記入、3年後までの記入は必須

※経営革新計画承認事業の場合は記入不要

※経常利益＝営業利益－営業外費用

※付加価値額＝営業利益＋人件費＋減価償却費

※第三者承継促進事業は直近期末の記入のみ

## 事業収支予算書

### 1. 収入の部

(単位：円)

	金額	資金の調達先	令和 年度
自己資金	0		
借入金	0		
その他	0		
事業経費の計	0		0

資金調達の目途

(資金調達の見込みを記入)

### 2. 支出の部

(単位：円)

事業区分	補助対象経費	経費内訳、積算明細	事業に要する経費 (消費税込み)	補助対象経費額	補助申請額	負担区分		備考
						補助金負担	自己負担	
① 事業承継実施事業						/	/	
	事業承継実施事業計		0	0	0	0	0	
② 人材育成事業						/	/	
	人材育成事業計		0	0	0	0	0	
③ 新商品・新サービス開発事業						/	/	
	新商品・新サービス開発事業計		0	0	0	0	0	
④ 販路開拓事業						/	/	
	小規模事業者企業価値向上事業計		0	0	0	0	0	
全体合計			0	0	0	0	0	

- (注) 1 対象経費は、要綱別表1に掲載している補助対象経費のいずれかを記載すること。  
 2 補助申請額は対象経費ごとに計算し、端数は切り捨てとしてください。  
 3 事業を委託する場合は、備考欄に想定している委託先名を記入すること。  
 4 記入欄が不足する場合は、追加して記載すること。  
 5 備考欄に書ききれない場合はメモ欄に記載すること。

メモ欄



## 事業収支予算書

### 1. 収入の部

(単位：円)

	金額	資金の調達先	令和 年度
自己資金	0		
借入金	0		
その他	0		
事業経費の計	0		0

資金調達の目途

(資金調達の見込みを記入)

### 2. 支出の部

(単位：円)

事業区分	補助対象経費	経費内訳、積算明細	事業に要する経費 (消費税込み)	補助対象経費額	補助申請額	負担区分		備考
						補助金負担	自己負担	
⑤ 第三者承継促進事業						/	/	
	⑤ 第三者承継促進事業計		0	0	0	0	0	
⑥ 小規模事業者企業価値向上事業						/	/	
	⑥ 小規模事業者企業価値向上事業計		0	0	0	0	0	
全体合計			0	0	0	0	0	

- (注) 1 対象経費は、要綱別表1に掲載している補助対象経費のいずれかを記載すること。  
 2 補助申請額は対象経費ごとに計算し、端数は切り捨てとしてください。  
 3 事業を委託する場合は、備考欄に想定している委託先名を記入すること。  
 4 記入欄が不足する場合は、追加して記載すること。  
 5 備考欄に書ききれない場合はメモ欄に記載すること。

メモ欄

様式第1-2号

令和 年 月 日

島根県知事 様

住所  
補助事業者  
代表者 印

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付申請書

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第6条第2項に基づき、下記のとおり補助金の交付を申請します。

記

- 1 補助事業の内容
- 2 補助金交付申請額 金 円
- 3 補助事業の経費の内訳

経費の内容	金額
企業への事業費	円

- 4 事業完了期日 年 月 日

添付書類

間接補助事業者の補助金交付申請書類一式の写し

様式第2-1号

指令第 号

補助事業者  
代表者様

令和 年 月 日付け第 号で申請のあった 年度島根県事業承継新  
事業活動等支援補助金については、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱（以  
下「交付要綱」という。）第7条第1項の規定により、下記のとおり交付を決定します。

令和 年 月 日

島根県知事名 印

記

- 1 補助金の対象となる事業は、交付要綱第6条第2項の規定により申請された事業とし、その内容は申請書記載のとおりとする。
- 2 補助金の対象となる期間は間接補助事業の補助対象期間の14日以内までとする。
- 3 補助事業に要する経費及び補助金の額は、次のとおりとする。

経費の内容	補助金の額
企業への事業費	金 円

ただし、補助事業の内容が変更された場合における補助事業に要する経費及び補助金の額については、別に通知するところによるものとする。

様式第 2 - 2 号

指令第 号

間接補助事業者  
代 表 者 様

令和 年 月 日付け第 号で申請のあった 年度島根県事業承継新  
事業活動等支援補助金については、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱（以  
下「交付要綱」という。）第 7 条第 3 項の規定により、下記のとおり交付を決定します。

令和 年 月 日

所 在 地  
補 助 事 業 者  
代 表 者 印

記

- 1 補助金の対象となる事業は、交付要綱第 6 条第 1 項の規定により申請された事業とし、その内容は申請書記載のとおりとする。
- 2 補助金の対象となる期間
- 3 補助事業に要する経費及び補助金の額は、次のとおりとする。

補助金の額：金 円

ただし、補助事業の内容が変更された場合における補助事業に要する経費及び補助金の額については、別に通知するところによるものとする。

様式第 3-1 号

令和 年 月 日

補助事業者 代表者 様

所在地  
間接補助事業者  
代表者 印

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付申請取下書

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第 8 条第 1 項に基づき、下記のとおり補助金の申請を取り下げます。

記

- 1 交付決定日 令和 年 月 日
- 2 交付決定番号 指令第 号
- 3 取下理由

様式第3-2号

令和 年 月 日

島根県知事 様

所在地

補助事業者

代表者 印

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付申請取下書

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第8条第2項に基づき、下記のとおり補助金の申請を取り下げます

記

- 1 交付決定日 令和 年 月 日
- 2 交付決定番号 指令第 号
- 3 取下理由

添付書類

間接補助事業者の島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付申請取下書の写し

様式第4-1号

第 号  
令和 年 月 日

補助事業者  
代表者様

所在地  
間接補助事業者  
代表者様

島根県事業承継新事業活動等支援補助金変更申請書

令和 年 月 日付け指令 第 号で交付決定通知のあったこの補助事業の内容を下記のとおり変更したいので、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第10条第1項の規定により申請します。

記

1 変更の理由

2 変更の内容

3 変更する補助対象経費 別添事業収支予算書のとおり

添付書類

変更前の事業収支予算書

変更後の事業収支予算書

様式第4-2号

第 号  
令和 年 月 日

島根県知事 様

所 在 地  
補 助 事 業 者  
代 表 者 様

島根県事業承継新事業活動等支援補助金変更申請書

令和 年 月 日付け指令 第 号で交付決定通知のあったこの補助事業の内容を下記のとおり変更したいので、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第10条第2項の規定により申請します。

記

1 変更の理由

2 変更の内容

添付書類

間接補助事業者の変更申請書類一式の写し



様式第5-1号

第 号  
令和 年 月 日

補助事業者  
代表者様

所在地  
島根県知事名印

島根県事業承継新事業活動等支援補助金変更承認の可否

令和 年 月 日付けで変更申請のあった下記間接補助事業者の補助事業について、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第10条第3項の規定により承認（します・しません）。

記

1 変更申請の承認（する・しない）間接補助事業者

様式第 5-2 号

第 号  
令和 年 月 日

間接補助事業者  
代 表 者 様

所 在 地  
補 助 事 業 者  
代 表 者 印

島根県事業承継新事業活動等支援補助金変更承認の可否

令和 年 月 日付けで変更申請のあった補助事業について、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第 10 条第 4 項の規定により承認（します・しません）。

様式第 6-1 号

令和 年 月 日

補助事業者  
代表者様

所在地  
間接補助事業者  
代表者印

島根県事業承継新事業活動等支援事業中止（廃止）申請書

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第 11 条第 1 項に基づき、下記のとおり補助事業の中止（廃止）を申請します。

記

- 1 交付決定日 令和 年 月 日
- 2 交付決定番号 指令第 号
- 3 中止（廃止）の理由
- 4 中止（廃止）の時期

様式第 6-2 号

令和 年 月 日

島根県知事 様

所 在 地  
補 助 事 業 者  
代 表 者 印

島根県事業承継新事業活動等支援事業中止（廃止）申請書

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第 11 条第 2 項に基づき、下記のとおり補助事業の中止（廃止）を申請します。

記

- 1 交付決定日 令和 年 月 日
- 2 交付決定番号 指令第 号
- 3 中止（廃止）の理由
- 4 中止（廃止）の時期

添付書類

間接補助事業者の島根県事業承継新事業活動等支援事業中止（廃止）申請書一式の写し

様式第7-1号

第 号  
令和 年 月 日

間接補助事業者  
代 表 者 様

所 在 地  
島 根 県 知 事 名 印

島根県事業承継新事業活動等支援事業中止（廃止）申請の回答

令和 年 月 日付けで中止（廃止）の申請のあった下記間接補助事業者の補助事業について、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第11条第3項の規定により承認（します・しません）。

記

1 中止（廃止）（する・しない）間接補助事業者

様式第7-2号

第 号  
令和 年 月 日

間接補助事業者  
代 表 者 様

所 在 地  
補 助 事 業 者  
代 表 者 印

島根県事業承継新事業活動等支援事業中止（廃止）申請の回答

令和 年 月 日付で変更申請のあった補助事業について、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第11条第4項の規定により承認（します・しません）。

様式第8-1号

令和 年 月 日

補助事業者  
代表者様

所在地  
間接補助事業者  
代表者印

島根県事業承継新事業活動等支援補助金に係る遂行状況報告書

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第12条第1項に基づき、下記のとおり  
遂行状況を報告いたします。

記

- 1 補助事業名
- 2 補助金交付決定額 金 円
- 3 補助事業の実施状況
- 4 補助事業の執行状況 別添事業収支決算書のとおり
- 5 補助事業の今後の見通し

様式第8-2号

令和 年 月 日

島根県知事 様

所 在 地  
補 助 事 業 者  
代 表 者 印

島根県事業承継新事業活動等支援補助金に係る遂行状況報告書

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第12条第2項に基づき、下記のとおり  
遂行状況を報告いたします。

記

1 補助事業一覧

間接補助事業者	補助事業名

2 補助金交付決定額一覧

間接補助事業者	補助金交付決定額

補助金交付決定額合計 金 円

3 補助事業の今後の支援の見通し

添付書類

間接補助事業者の遂行状況報告書類一式の写し



様式第9-1号

令和 年 月 日

補助事業者  
代表者様

所在地  
間接補助事業者  
代表者印

島根県事業承継新事業活動等支援補助金に係る実績報告書

令和 年 月 日付け 第 号をもって交付決定通知のあった標記事業について、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第13条第1項の規定により、下記のとおり実績を報告します。

記

- 1 補助金交付決定額 金 円
- 2 補助金実績額 金 円
- 3 事業実施状況 別紙 事業実施報告書のとおり
- 4 事業の経費の配分、内訳  
別紙 事業収支決算書のとおり
- 5 補助事業完了日 令和 年 月 日

※取得財産等のある場合、「取得財産等管理台帳」の写しを添付のこと



4. 収益納付に係る報告について

令和 年 月 日付けをもって交付決定の通知があった上記の補助事業に関し、補助事業の実施期間内における事業化等の状況について、島根県小規模事業者企業価値向上補助金交付要綱第19条の規定に基づき、以下のとおり報告します。

(1)補助事業の実施結果の事業化等の有無（該当する方に○をしてください。）

- |                      |   |   |
|----------------------|---|---|
| ①補助事業の実施結果の事業化       | 有 | 無 |
| ②産業財産権等の譲渡又は実施権の設定   | 有 | 無 |
| ③その他補助事業の実施により発生した収益 | 有 | 無 |

(単位：円)

補助事業に係る売上額 (A)	補助事業に係る収入額 (B)	補助事業に係る収益額 (C)	納付額 (D)

(2)記載注意事項について

- ①「補助事業に係る売上額 (A)」とは、補助事業期間における当該事業の売上額をいう。
- ②「補助事業に係る収入額 (B)」とは、「補助事業に係る売上額」から、同売上額を得るのに要した額（補助対象経費以外の製造原価・販売管理費等）を差し引いた額をいう。
- ③「補助事業に係る収益額 (C)」とは、「補助事業に係る収入額」から当該事業で活用した「補助対象経費」の合計を除いた金額をいう。
- ④「納付額 (D)」は「補助事業に係る収益額」の補助率（「補助金額／補助対象経費」）に応じて算出した金額をいう。

(注) 補助事業に係る収益額等の算定に必要な資料を添付すること。

### 事業収支決算書

1. 収入の部

(単位：円)

	金額	資金の調達先	令和 年度
自己資金	0		
借入金	0		
その他	0		
事業経費の計	0		0

資金調達の用途

(資金調達の見込みを記入)

2. 支出の部

事業区分	補助対象経費	経費内訳、積算明細	交付決定当初			遂行状況報告時 【小計】は事業に要する経費（消費税込み）と同額				実績報告時			補助申請額（実績）		備考	
			事業に要する経費（消費税込み）	補助対象経費額	補助申請額	未実施・未着手	見積・発注・契約済額	納品・請求・完了額	【小計】	事業に要する経費（消費税込み）	補助対象経費額	補助申請額	負担区分			
													補助金負担	自己負担		
① 事業承継実施事業																
	事業承継実施事業計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
② 人材育成事業																
	人材育成事業計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
③ 新商品・新サービス開発事業																
	新商品・新サービス開発事業計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
④ 販路開拓事業																
	小規模事業者企業価値向上事業計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
全体合計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

- (注) 1 対象経費は、要綱別表1に掲載している補助対象経費のいずれかを記載すること。  
 2 補助申請額は対象経費ごとに計算し、端数は切り捨ててください。  
 3 事業を委託する場合は、備考欄に委託先名を記入すること。  
 4 記入欄が不足する場合は、追加して記載すること。  
 5 備考欄に書ききれない場合はメモ欄に記載すること。

メモ欄

### 事業収支決算書

1. 収入の部

(単位:円)

	金額	資金の調達先	令和 年度
自己資金	0		
借入金	0		
その他	0		
事業経費の計	0		0

資金調達の目的

(資金調達の見込みを記入)

2. 支出の部

事業区分	補助対象経費	経費内訳、積算明細	交付決定当初			遂行状況報告時 【小計】は事業に要する経費(消費税込み)と同額				実績報告時			補助申請額(実績)		備考
			事業に要する経費(消費税込み)	補助対象経費額	補助申請額	未実施・未着手	見積・発注・契約済額	納品・請求・完了額	【小計】	事業に要する経費(消費税込み)	補助対象経費額	補助申請額	負担区分		
													補助金負担	自己負担	
⑤ 第三者承継促進事業													/	/	
	第三者承継促進事業計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑥ 小規模事業者企業価値向上事業													/	/	
	小規模事業者企業価値向上事業計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
全体合計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

- (注) 1 対象経費は、要綱別表1に掲載している補助対象経費のいずれかを記載すること。  
 2 補助申請額は対象経費ごとに計算し、端数は切り捨てとしてください。  
 3 事業を委託する場合は、備考欄に委託先名を記入すること。  
 4 記入欄が不足する場合は、追加して記載すること。  
 5 備考欄に書ききれない場合はメモ欄に記載すること。

メモ欄

様式第9-2号

令和 年 月 日

島根県知事 様

所在地  
補助事業者  
代表者印

島根県事業承継新事業活動等支援補助金に係る実績報告書

令和 年 月 日付け 指令第 号をもって交付決定通知のあった標記事業について、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第13条第2項の規定により、下記のとおり実績を報告します。

記

- 1 補助金交付決定額 金 円
- 2 補助金実績額 金 円
- 3 事業実施状況

4 事業の経費の配分、内訳

実績報告のあった間接補助事業者	補助実績額

- 5 補助事業完了日 令和 年 月 日

添付書類 間接補助事業者の実績報告書一式の写し

様式第10-1号

令和 年 月 日

補助事業者  
代表者様

所在地  
間接補助事業者  
代表者印

年度島根県事業承継新事業活動等支援補助金精算払請求書

令和 年 月 日付け 第 号をもって交付決定通知のあった標記  
事業について、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第15条第1項の規  
定により、下記のとおり請求します。

記

1. 事業名
2. 交付決定額 円
3. 請求額 円

様式第10-2号

令和 年 月 日

島根県知事 様

所 在 地  
補 助 事 業 者  
代 表 者 印

島根県事業承継新事業活動等支援補助金精算払請求書

令和 年 月 日付け 指令第 号をもって交付決定通知のあった  
標記事業について、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第15条第2項  
の規定により、下記のとおり請求します。

記

- |          |   |
|----------|---|
| 1. 交付決定額 | 円 |
| 2. 請求額   | 円 |

添付書類 当該請求に係る間接補助事業者の精算払請求書の写し



(様式第 11 号)

## 取得財産等管理台帳

財産名	規格	数量	単価	金額 (税抜)	取得年月日	保管場所	備考

(注) ・対象となる取得財産等は、取得価格が 50 万円(税抜)以上、効用の増加価格が 50 万円以上(税抜)の機械、器具、備品及びその他の財産  
・数量は、同一規格であれば一括して記載して差し支えない。ただし、単価が異なる場合には区分して記載のこと。  
・取得年月日は、検収年月日を記載のこと。

様式第 12-1 号

令和 年 月 日

所 在 地  
補 助 事 業 者  
代 表 者 様

所 在 地  
間 接 補 助 事 業 者  
代 表 者 印

### 取得財産等の処分承認申請書

令和 年度島根県事業承継新事業活動等支援補助金により取得した財産等を、  
下記のとおり処分等したいので、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要  
綱第 17 条第 2 項に基づき、申請します。

#### 記

1. 品目及び取得年月日
2. 取得価格及び時価
3. 処分の方法
4. 処分の理由
5. 取得財産の写真・図面等 別添のとおり

様式第 1 2-2 号

令和 年 月 日

島根県知事 様

所 在 地  
補 助 事 業 者  
代 表 者 印

取得財産等の処分承認申請書

島根県事業承継新事業活動等支援事業実施要綱第 17 条第 2 項に基づき、取得財産等の処分承認申請書（様式第 1 2-1 号）の提出がありましたので、同条第 3 項の規定により、申請します。

記

1. 間接補助事業者からの申請の内容  
別添間接補助事業者の処分承認申請書の写しのとおり
2. 処分に対する意見

様式第13-1号

令和 年 月 日

補助事業者  
代表者様

島根県知事名 印

取得財産等の処分承認適否の回答

このことについて、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第17条第3項に基づき、申請のあった取得財産等の処分について、同条第4項の規定により審査したので、下記のとおり通知します。

記

1. 審査結果
2. 返還金額について
3. 間接補助事業者の返還後について

様式第 13-2 号

令和 年 月 日

間接補助事業者  
代 表 者 様

所 在 地  
補 助 事 業 者  
代 表 者 様

取得財産等の処分承認適否の回答

このことについて、島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第 17 条第 2 項に基づき申請のあった取得財産等の処分について、同条第 5 項の規定に基づき下記のとおり通知します。

記

1. 審査結果
2. 返還金額について

様式第 1 4 - 1 号

令和 年 月 日

所 在 地  
補 助 事 業 者  
代 表 者 様

所 在 地  
間 接 補 助 事 業  
代 表 者

産業財産権等取得等届出書

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第 18 条第 1 項の規定に基づき、下記のとおり産業財産等の取得（出願、譲渡、実施権の設定）をしたので届け出ます。

記

- 1 産業財産権等の種類及び番号
- 2 産業財産権等の内容
- 3 相手先及び条件（譲渡、実施権設定の場合）

様式第 1 4 - 2 号

令和 年 月 日

島根県知事 様

所 在 地  
間 接 補 助 事 業  
代 表 者

産業財産権等取得等届出書

島根県事業承継新事業活動等支援補助金交付要綱第 18 条第 2 項の規定に基づき、下記のとおり届け出ます

記

- 1 産業財産権等の種類及び番号、内容、相手先及び条件（譲渡、実地権設定の場合）  
別添間接補助事業者の産業財産権等取得等届出書の写しのとおり